

福祉さとやまべ

発行 松本市社会福祉協議会 里山辺支会
編集 福祉さとやまべ編集委員会
印刷 藤原印刷株式会社

環境問題の解決は「人と人のつながり」から

里山辺地区環境衛生協議会 会長 **小野 忠**

令和四年度より里山辺地区環境衛生協議会会長を務めています。西小松町会長の小野忠です。地域の皆様方には、常日頃から地区の環境衛生の向上にご協力を頂き感謝申し上げます。

里山辺地区環境衛生協議会は地区十六町会の衛生部長により構成されていて、行政と呼応して環境衛生の向上を図り、地区住民の生活を明るく、住みよくすることを目的に活動をしています。

具体的には、町会の衛生部長の仕事として、ごみの分別指導、ゴミステーションの管理、河川清掃の実施・指導、最近では特定外来生物の駆除の推進等、また地区衛生協議会として、ごみゼロ運動への参加、研修視察・勉強会、地区内の清掃活動等を行っています。

活動実績の具体的な例として、

春と秋に行う薄川・長沢川等の河川清掃の地区内全体の清掃実績は、参加人数述べ三九四八人、収集した可燃ごみ(草を含む)・泥砂は二四七五袋です。多くの皆さんに参加いただき、毎回きれいになっています。

また、皆さんご承知のとおり、令和五年四月からプラスチックの分別が「容器包装プラスチック」から「プラスチック資源」となり、出し易くなりました。当初混乱も見られましたが、徐々に理解されてきているようです。しかし、「大型プラスチック資源」については、指定品目が分かりにくいことから、間違ってしまう方もおられるので、もう一度確認をお願いします。

さて、新しい環境問題として、最近町会の集会等で話題になるのは、空き地・空き家の管理の問題です。「あの家は管理がで

きていないので隣家まで草や庭木が出ています」「空き家にごみ放置されて汚い」等々で「町会長なんとか指導してよ！」の声がよく聞かれます。しかしながら、このようなことは自己責任でやるのが基本となるため、町会はもちろん行政でも対応が困難なのが現状です。

このようなことが起きるのは何が原因でしょうか。よく福祉の課題を考える時、「キーワードはコミュニティ(人と人とのつながり)」と言われる。環境問題を考える時と同じで、このキーワード「人と人とのつながり」が大切だと最近つくづく思います。相手を思いやる気持ちがあれば、身近な環境問題も多くが解決するのではないのでしょうか。

里山辺地区環境衛生協議会は、地域のみなさんと共に、「これからも「人と人とのつながり」を大切に、地区の環境保全活動をすすめていきます。

今後ともご協力をよろしくお願いたします。



地区内清掃活動の様子

「里山辺かるた」
よもやま話 ④1

《山辺の桜》の開花
今年は何時だろう？

松本市地域文化財連絡協議会
副会長 **小岩井 俊忠**

最近の地球温暖化で、「山辺の桜の季節」も随分早くなった気がします。この《かるた》制作時、御母家入口のなだらかな坂の上に乱れ咲く一本の桜が大変印象的でした。

美ヶ原温泉郷の北端に位置する御母家温泉地区も、昔とだいぶ趣が変わってきた気がします。が、金宇館さんの建物が今も往時を偲ばせてくれます。

「御母家の語源はアイヌ語の《オッポケ(湯が自然に湧き出す所)》に由来する」と、中川治雄先生は述べておりましたが、果たしてどうでしょうか。

今、古代に思いを馳せてみるのも良いでしょう。



今年の桜の開花は何時？

桜咲く
湯坂登れば 御母家の湯

ボランティア部の活動を通じて

里山辺地区ボランティア部会
部会長 佐々木 千鶴

ここ数年、少なからずコロナ感染症の影響を受けていた活動でしたが、今年度からほぼ以前と同様に行うことができました。ボランティア部の主な活動として、「ふれあい会食会」が第一回を七月十一日・十三日、第二回を十一月七日・九日に開催されました。

レクリエーションでは、音楽療法士の杉本裕子さんによるアコーディオンの演奏に合わせた手遊びや歌、「チエちゃんとお友達」(百瀬さん、柳沢さん)による腹話術での脳トレ・手遊び、面白いクイズなどで、それぞれの会場を笑いと冷や汗で活気づけていただきました。

また、両回にわたりバルーンアートの尾澤さんには白い壁を賑やかに、民生委員の方には何も無いテーブルを感動のペットボトル生け花で飾っていただき、社協マスコットのつむぎちゃんの登場で少し緊張した会場の雰囲気も和やかになりました。

以前、お昼のお弁当はボランティア部で作っていましたが、諸事情もあり外部から用意する

形となりました。お弁当の内容が保健師からの食アドバイスにぴったりの「まごわやさしい」弁当で勉強になりました。

何より、会食会に参加した六十五歳以上の一人暮らしの皆さんが大勢いらして、楽しく食事をしてくださっている様子が伺えたことはうれしい限りです。

部会としては他に「里山辺地区夏まつり」「福祉を語るつどい」「福祉ふれあいフェスティバル」へ参加をしました。活動を通じて各町会から数名の代表が集まった方との出会いは、貴重な体験となりました。

二月には、ボランティア部員のために開催した研修会もありました。「ボランティア」が、決して他人(ひと)のためだけではなく、自分の役にも立つ活動になってほしいと感じます。

最後になりましたが、事務局をはじめ、大勢の関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。



夏まつりでは「おもちゃつり」のブースを担当しました

地域の子どもたちの健全な成長を願って

育ジイ会はこんな会

育ジイ会 事務局 小幡 泰俊

里山辺地区には、地域の宝であり、かけがえのない子どもたちを支援する『育ジイ会』があります。「地域の子どもたちを地域でも育てる」を会のスローガンに掲げ、里山辺保育園、山辺児童センター、里山辺児童公園の草刈り、高枝剪定、畑起こし、焼き芋会を始めとする行事への協力・支援に取り組み、平成二十六年に発足して今年度で九年目を迎えます。

現在会員は十八名で、会の名称は『育ジイ会』ですが、若い会員もいます。活動は年間五回の作業が中心ですが、保育園のカレー会や焼き芋会、児童センターの焼き芋会にも可愛い招待状をもらい参加しています。

育ジイ会の会員の中には、小さな子どもたちからは、○○さん、○○のおじさんと名前で呼ばれる程親しまれている方もいます。

育ジイ会の活動に対して、保育園や児童センターの先生方、親御さんからは感謝の言葉を頂き、会員一同今後も子どもたち

を支えようと、気持ちも新たにしています。



やい！ こりゃ石の多い畑だな



孫のために頑張るか

編集後記

コロナも五類に移り、多くの活動の再開に喜びの声や笑顔をたくさんいただきました。「福祉さとやまべ」も皆様のご協力を得て、計画通り発行することができ、心より感謝致します。

編集委員一同